

令和4年 3月30日	<b>農作物病害虫発生予報</b> <b>4月</b>	山口県病害虫防除所 山口県農林総合技術センター
---------------	--------------------------------	----------------------------

～目次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病害虫】	2
	【その他の病害虫】	12
III	参考(予報の見方、気象予報)	13

I 予報の概要

作物名	病害虫名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	平年並	平年並	前年並
	そうか病	平年並	平年並	少
ナシ	黒斑病	<b>やや多</b>	やや多	少
果樹全般 (ウメ、モモ)	カメムシ類	平年並	平年並	多
タマネギ	べと病	<b>多</b>	多	多
	白色疫病	平年並	やや少	前年並
イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並	前年並
	アブラムシ類	平年並	平年並	少
	ハダニ類	平年並	やや少	少
	アザミウマ類	<b>多</b>	多	多

お問い合わせ先

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	開花前

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率 15.8%(平年14.0%)、発病葉率 1.1%(平年0.8%)、発病度0.3(平年0.4)、発病葉枝率0.7%(平年1.3%)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(±)。

(3) 防除対策

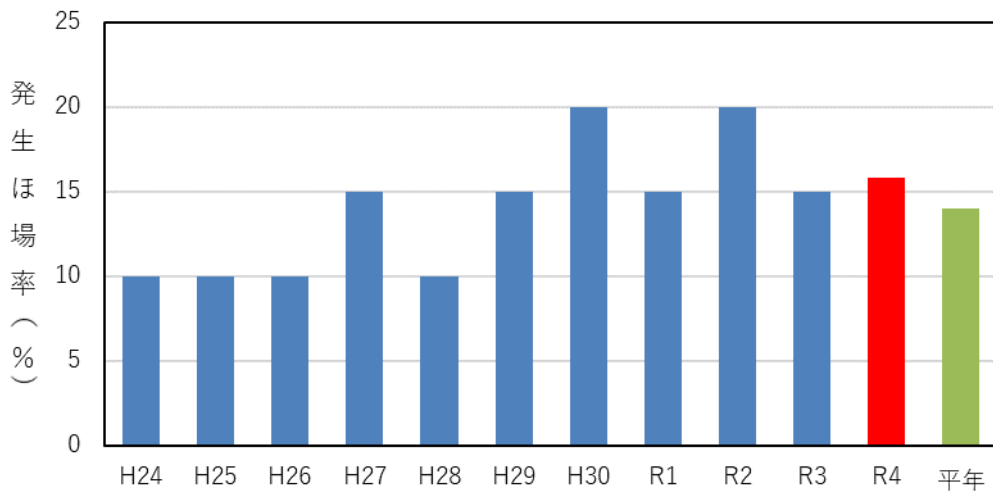
<耕種的防除>

ア 伝染源となる夏秋梢等の不要な枝を除去する。

イ 今の時期から防風樹や防風ネットを整備し、強風による枝葉の損傷を防ぐ。

<防除のポイント>

かいよう病にかかりやすい品種(アマナツ、イヨカン等)や越冬病斑が認められる園では、発芽前に無機銅剤(ICボルドー66D、コサイド3000、Zボルドー等)を必ず散布する。



カンキツかいよう病の発生ほ場率 (3月下旬、越冬病斑調査)

## 2 そうか病

### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	発芽始め (新梢が1 cmの頃)

### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年2.5%）、発病葉率0%（平年0.1%）で平年並みであった（±）。

イ 気象予報では、4月の降水量はほぼ平年並（±）。

### (3) 防除対策

#### <耕種的防除>

伝染源となる病斑のある葉や枝を除去する。

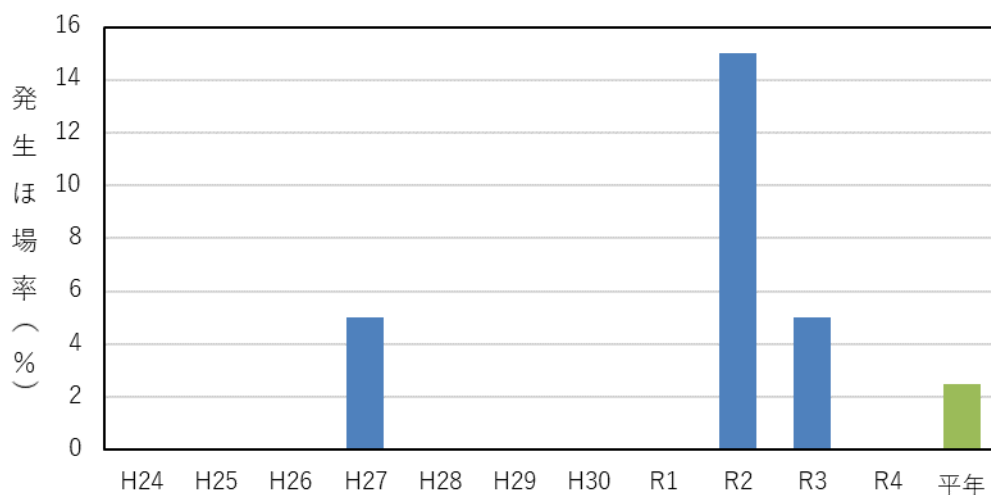
#### <防除のポイント>

ア 病斑が認められるほ場では、必ず薬剤防除を実施する。

イ 薬剤防除は新梢が1 cmの頃に行うと効果が高い。

ウ 一部のほ場では、ベンゾイミダゾール系薬剤（トップジンM剤、ベンレート剤等）の耐性菌が発生しているため、本剤を使用しても効果が認められない場合は、使用を中止し、ストロビー剤、フロンサイド剤、デラン剤等を使用する。

エ 減農薬栽培ほ場では、多発することがあるので、発生状況をよく確認する。



カンキツそうか病の発生ほ場率 (3月下旬、越冬病斑調査)

ナシ

1 黒斑病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・りんぼう脱落期</li> <li>・開花直前</li> <li>・3分咲頃</li> <li>・人工交配終了後</li> <li>・落花後</li> </ul>

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率37.5%（平年30.2%）、発病枝率0.3%（平年0.2%）、発病芽率0.1%（平年0.2%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並（±）。

(3) 防除対策

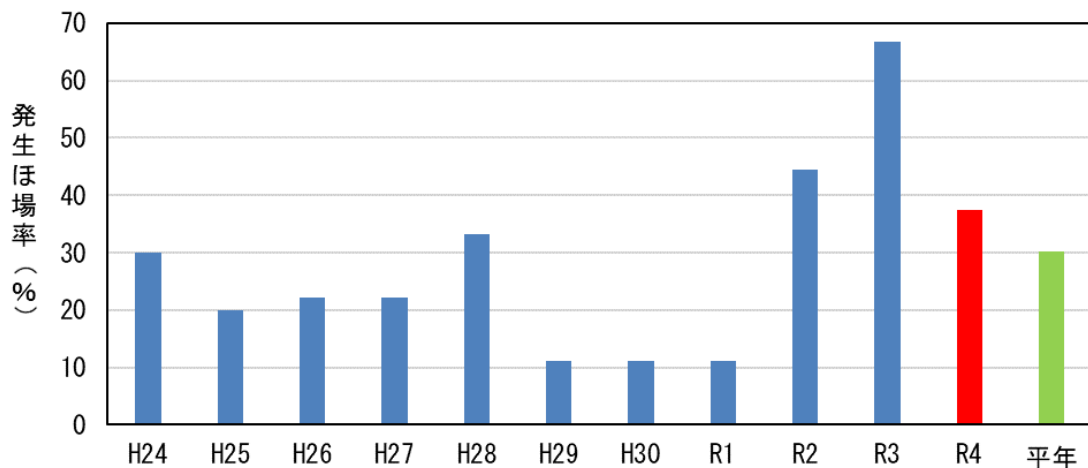
<耕種的防除>

萌芽期から開花までに、伝染源となる枝病斑の封じ込めと病芽の切り取りを徹底し、伝染源を減らす。

<防除のポイント>

ア 開花期から小袋掛けの終わる4月中旬から5月中旬までが特に重要な薬剤防除時期である。

イ 耐性菌の出現を回避するため、同一系統の薬剤を連用しない。なお、県内全域でポリオキシシン剤の耐性菌が発生しているため、銅剤と混用する。



ナシ黒斑病の発生ほ場率 (3月下旬)

## 果樹全般（ウメ、モモ）

### 1 カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

#### (1) 予報内容

予想発生量	現況（クサギカメムシ越冬量）		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	園内への飛来確認時

#### (2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの隙間トラップによる越冬量調査(10か所)では、1トラップ当たり22.0頭(平年21.7頭)で平年並みであった(±)。

イ 果樹カメムシ類の越冬量と相関の高い前年のスギ、ヒノキの花粉飛散量は平年並みであった(±)。

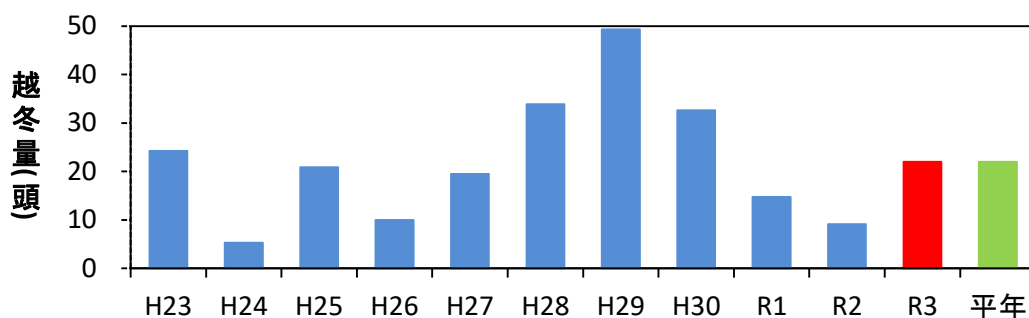
#### (3) 防除対策

##### <耕種的防除>

常発園では、ネット(網目4mm以下)で園全体を覆い侵入を防ぐ。

##### <防除判断>

通常、果樹へは5月以降飛来するが、4月でも気温が高いと昼間に飛来することがあるので、モモ、ウメなどで被害を受けることの多い園では、特に気温の高い日は園内を観察し、飛来を確認したら防除する。



隙間トラップによるクサギカメムシ越冬量(10トラップ平均)

## タマネギ

### 1 ベと病

令和4年3月15日付け令和3年度農作物病虫害発生予察注意報第4号参照

[https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou\\_keihou.html](https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou_keihou.html)

#### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	発生前～発病初期

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率3.6%(平年5.7%)、発病株率0.1%(平年0.4%)、1 a 当たり調査では、越年り病株(一次感染株)の発生ほ場率25.0%(平年10.0%)、発病株数1.9(平年0.6)で平年に比べ多かった(+)

イ 気象予報では、4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

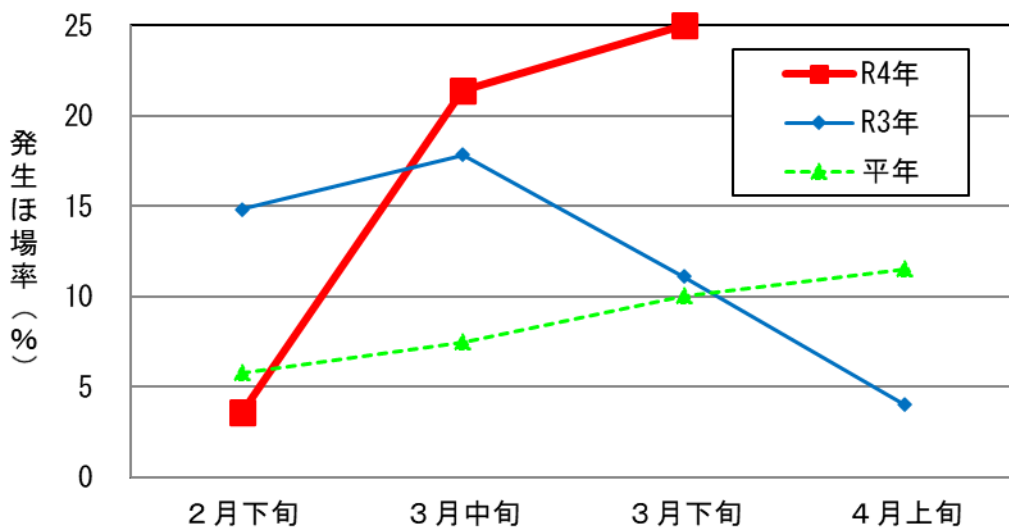
ア ほ場をよく観察し、越年り病株(一次感染株)や症状の激しい二次感染株は直ちに抜き取り、ほ場外に持ち出し、適正に処分する。

イ ほ場の排水を良好にする。

<防除のポイント>

ア 越年り病株等の抜き取り後は、治療効果のある薬剤(殺菌剤コード4, 11, 40等)で直ちに防除を行う。越年り病株が確認されなかった場合は、マンゼブ剤(殺菌剤コードM03)、フルアジナム剤(殺菌剤コード29)等の保護殺菌剤で定期的な予防防除を行う。

イ 本病に登録のある薬剤は、混合剤が多いため、殺菌剤コード(成分)を確認し、同一系統の薬剤の連用を避けるとともに、必ず使用回数を確認する。



タマネギべと病越年り病株の発生推移(1 a 当たり調査)

2 白色疫病

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	前年並	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年6.4%)、発病株率0%(平年0.5%)で平年に比べやや少なかった(-)

イ 気象予報では、4月の気温は高く、降水量はほぼ平年並（±）。

(3) 防除対策

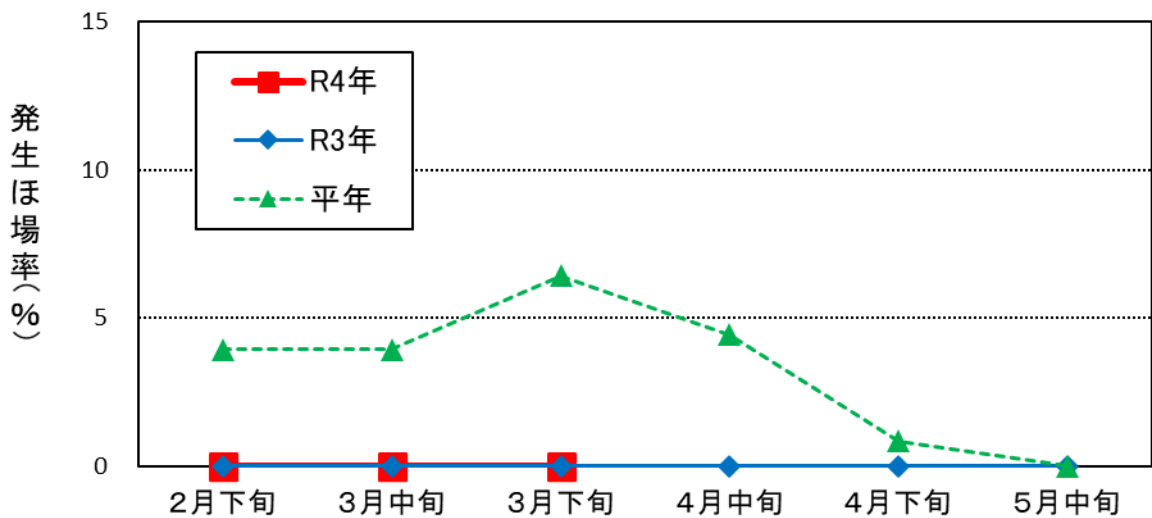
<耕種的防除等>

ほ場の排水を良好にする。

<防除のポイント>

ア ほ場の見回りを行い、発生を確認した場合は、治療効果がある薬剤（殺菌剤コード4、40及び43を含む薬剤）で直ちに防除する。

イ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、系統の異なる薬剤で追加防除を行う。



タマネギ白色疫病の発生推移

イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発病前または発病初期

(2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率15.8%（平年10.0%）、発病株率0.3%（平年1.5%）、発病葉率0.1%（平年0.6%）、発病果率0.0%（平年0.2%）で平年並であった（±）。

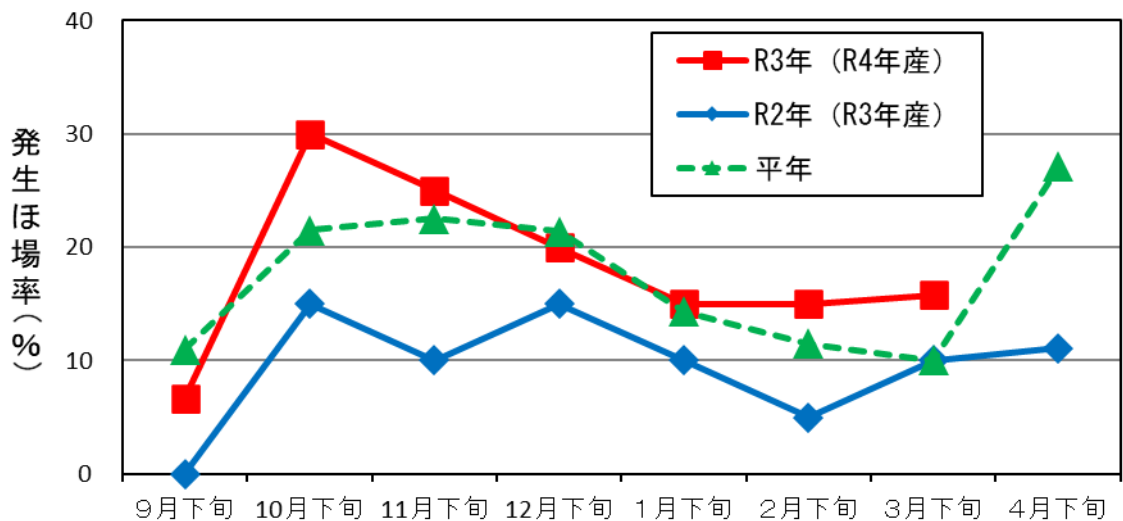
(3) 防除対策

<耕種的防除等>

被害果や被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

<防除のポイント>

- ア 本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。
- イ 予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去後、丁寧に散布する。
- ウ トリフミン剤などのステロール生合成阻害剤は、耐性菌が出現しているため、必ず防除効果を確認し、防除効果が劣る場合は他の薬剤を使用する。
- エ 薬剤散布後は防除効果を確認し、その後も発生が認められる場合は、約7日おきに1回～2回薬剤を散布する。
- オ 薬剤耐性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移

2 アブラムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	発生初期

(2) 予報の根拠

- ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率31.6% (平年20.9%)、寄生株率0.8% (平年1.7%)で平年並みであった (±)。
- イ 気象予報では、4月の気温は高い (+)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

下葉の葉かきをこまめに行う。

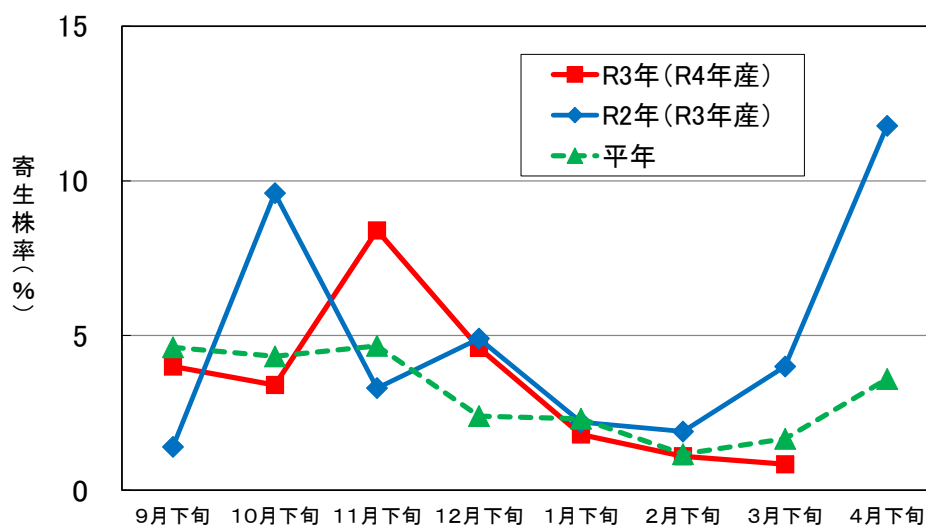
<防除のポイント>

- ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。
- イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。



(山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準ーミツバチの訪花活動に対する農薬の影響を参照)

( <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/3/e/3/3e30ea51da8efd56b606d192ed6b0f26.pdf> )



イチゴ アブラムシ類の発生推移

### 3 ハダニ類

令和3年10月6日付け令和3年度農作物病害虫発生予察注意報第2号参照

[https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou\\_keihou.html](https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/tyuuihou_keihou.html)

#### (1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	やや少	少	発生初期

#### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率31.6%(平年44.9%)、寄生株率5.6%(平年16.2%)で平年に比べやや少なかった(ー)。

イ 一部、多発しているほ場がみられた(+)

ウ 気象予報では、4月の気温は高い(+)

#### (3) 防除対策

##### <防除判断>

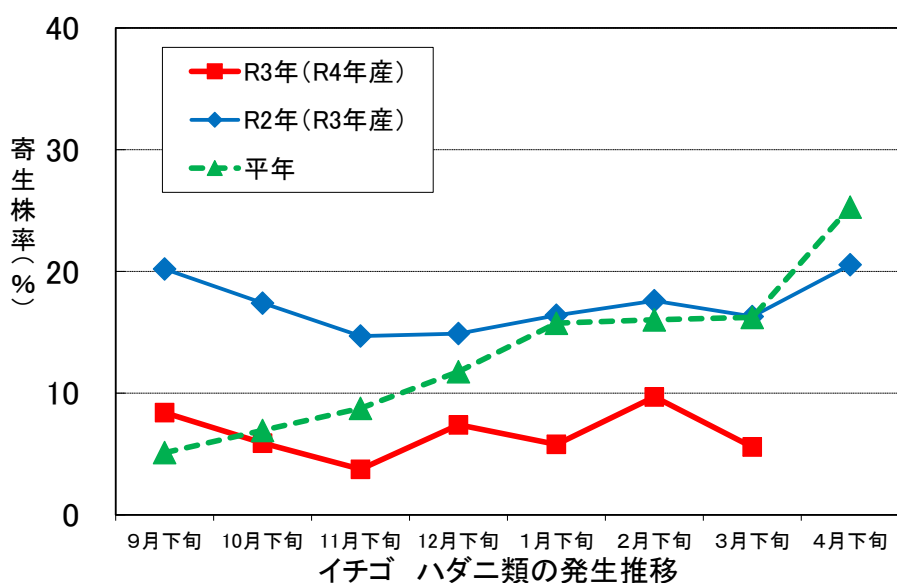
ア ハダニ類は体長が0.5mm程度と小さく、優占種であるナミハダニは体色が薄緑色で確認しにくいいため、ルーペを使用して葉裏を確認する必要がある。

イ 摘除した下葉10枚程度を白い紙袋に入れ、室内に1日おくと翌日にはハダニは新鮮な葉を求めて移動し、紙袋の上部に集まるため容易に観察できる。

ウ ハダニ類は部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、発生を認めたら直ちに防除を行う。

## <防除のポイント>

- ア 薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。
  - イ 気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、7～10日間隔で散布する。
  - ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。
  - エ 天敵（ミヤコカブリダニ等）を放飼している場合は次のことに注意して使用する。
    - (ア) 天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネ剤、ダニコング剤、スターマイト剤等）を使用する。
    - (イ) 硫黄のくん煙は1日2時間程度とする。
- ※ 放飼方法、放飼後の管理についてはメーカーホームページを参照
- オ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。  
 （山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準－ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響を参照）  
 (<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/3/e/3/3e30ea51da8efd56b606d192ed6b0f26.pdf>)



## 4 アザミウマ類

令和4年3月30日付け令和3年度農作物病害虫発生予察技術資料第7号参照

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/gijyutusiryou.html>

### (1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	多発生（寄生花率が10%以上）の時

(2) 予報の根拠

- ア 3月下旬の巡回調査では、発生ほ場率が52.6%(平年26.0%)、寄生花率が7.0%(平年3.4%)で平年に比べ多かった(+)。
- イ 一部、多発しているほ場がみられた(+)。
- ウ 気象予報では、4月の気温は高い(+)

(3) 防除対策

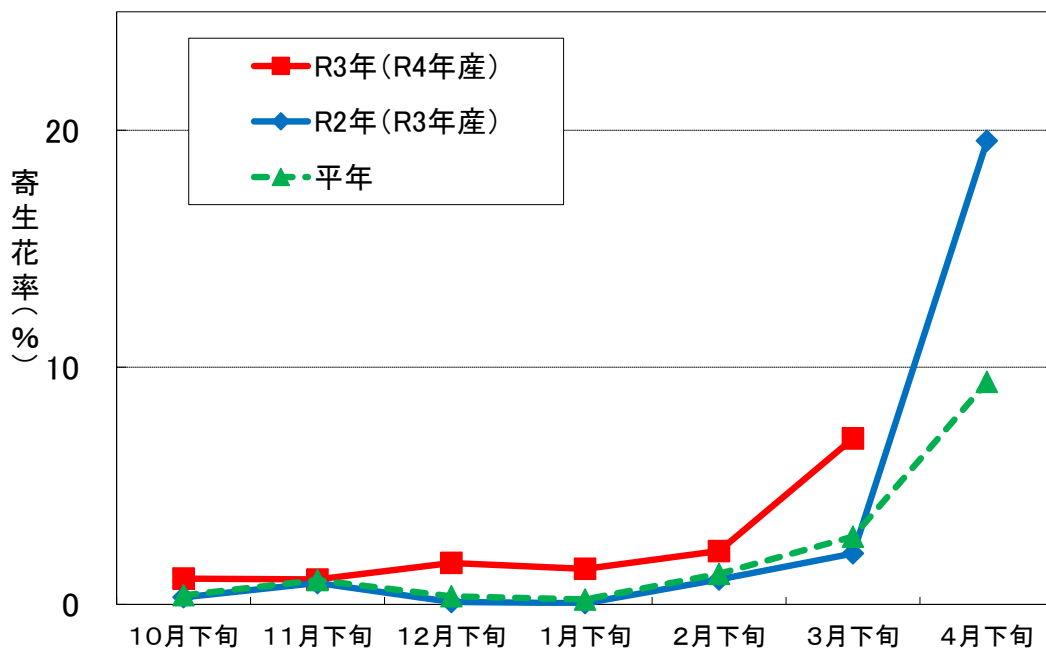
<防除判断>

気温が高くなると施設外からの侵入が増加し、施設内でも急激に増殖するため、こまめにほ場を見回り、寄生花率が10%を超えている場合には、直ちに防除を行う。

<防除のポイント>

- ア 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。化学農薬に対する抵抗性が発達しているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、他系統の剤に変更し、再度防除する。
- イ 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。  
(山口県農作物病害虫・雑草防除指導基準—ミツバチの訪花活動に対する農薬の影響を参照)

(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/3/e/3/3e30ea51da8efd56b606d192ed6b0f26.pdf>)



イチゴ アザミウマ類の発生推移

## 【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想 発生量	現況		発生ほ場率(%)		備 考
			平年比	前年比	本年	平年	
タマネギ	腐敗病	平年並	平年並	前年並	3.6	3.2	
	軟腐病	平年並	平年並	前年並	0	0	
	ボトリチス属菌による葉枯症(白斑葉枯病)	平年並	平年並	前年並	0	1.1	
イチゴ	コナジラミ類	平年並	平年並	前年並	36.8	33.3	

### III 参考

#### 1 予報の見方

##### (1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

###### ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

###### イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

##### (2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

##### (3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

#### 2 気象予報

##### (1) 概要

###### 1か月気象予報（3月24日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	20	30	50
降 水 量	30	30	40
日 照 時 間	30	40	30

###### 週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	10	20	70
2 週 目	30	50	20
3～4週目	20	40	40